

文芸欄

俳句

紅梅会（東灘区）

万緑の生きるよろこび風豊か
新緑を床に映して過去を消し
さくらんぼ種を飛ばすよ競技なり
五月雨を背につけ嬉しい今日一日
心地よきおしやれ被る夏帽子
季の移り風になびいて青芒
六甲山道一本の青芒
春の山ひとまわりふくみており

宝愛句らぶ（中央区）

ウクライナ待たれる願い春一番
太極拳葉色空色日脚伸ぶ
みちのくや雪雪雪の悪魔かな
啓蟄と知ってか子等の泥遊び
白梅や見知らぬ老と笑み交わし
異教徒も恵方向く節分の夜

梅の美会（兵庫区）

雛の顔良くも悪しくも折紙に
手ががみの春の兆しに紅をさす
春なかば米寿と記すカレンダー

高原ささゆり会（北区）

村おこしの巡回バスや春野行く
京の寺紅き振り袖弓をひく
主去り寂しがりしや虎落笛
蠟梅の香りひと枝持ち帰り
春蟬の声はどこからブナの森
雪の夜狩りせぬ爪を深く切る
ポケットに喉飴一つ春コート

ひまわり句会（北区）

自慢げに見せる大根ひ孫の手
薄氷や浮び居りたる水たまり



ひよどり台句会（北区）
冬の朝透き通る空見上げたり
冬薔薇ひかり求めて咲きにけり
澄み渡る歌声響く震災忌。
福男歓喜うずまき息白し
手袋の五指真直に干しにけり

北斗句会（北区）

産土の結びの習わし野火走る
風花や津和野の町の赤瓦
黄水仙行商列車の残り香
春泥を撥ねずに歩く京夫人
城攻めの如く野焼きの火を放つ
春とうく猫の足跡白き庭

見山台新樹会（北区）

禅寺の初春の門あけ放つ
学童の通う小路に雪だるま
寒波襲来パッチワークをちくちくと
暖かき正月なればうつらうつら
卒寿嬢も門前だけの雪を掻く
廃屋や山茶花一本ほこらしく

きらく句会（西区）

梅開くこころ辺りが良き高さ
庭のねぎ野菜高騰祈りも祈り
春節や獅子は優しく頭噛む
草津路や湯畑でポーズ雪景色
冬将軍めまいの原因見つからず

◆個人

食卓に季節のたより木の芽和え（東）北田 建樹
早咲きの桜賞でし九十かな（灘）福井 悦子
石段を数えて敏馬初詣（灘）山上 幸子
祝はれし卒寿過ぎての雛の膳（北）馬場みつえ
里山の木々に雑じりて寒椿（北）山田キミ子
ひと目ごと愛を編み込む冬帽子（須）福本 和恵
竹林の黄葉優し凍てる朝（垂）大上 昭敏
幼な友繰りごと多く日向ぼこ（西）北野 公昭

川柳

深江親交クラブ（東灘区）

九十の顔姿見に母をみて
塀の上雀とメジロがランデブー
あげようよ苦学生にも年金を
まん腹で五七五が浮かばない
花園や河を渡れば黄泉の国
いつの間に傘寿を迎え驚いた
鬼の面逃げるひ孫に頭がとぶ
冬空にボールひびかせグランドゴルフ
脳トレにストレス足まりトラウマに
曾孫きてジジババ嬉しえびす顔
桂木ひふみ会（北区）
ノンアルでごまかす辛さ情けない
生ビール悔し涙と一気飲み
酔いしれて楽になるのか恋心
帰省して久方振りの親子酒
地位と恋二股かけて失墜する

筑栄会（北区）

美しいままでポトンと寒つばき
大寒にお尻を出して内視鏡
酒飲めるか？心配顔の高校生
これスズメ半分残せワシの飯
笑うことそれが最高川柳部
無器用を笑顔でカバー生きてます
妻出掛け取り出す酒のこの旨さ

◆個人

おつとつとつまづく床に段差なし
久し振り会った友等は皆通院
経歴や学歴きかぬ云わないよ
祝日の国旗掲揚見ないね
子供の日俺にもあったそんな日が
八十二才生きた証に苗木植え

短歌

高原ささゆり会（北区）

亡き人の面影胸に打つ鐘に
淋しき思い解けて消え行く
幸せの時は止まりてもう三年
流れし涙いつ止まるやも
骨になる笑顔も声もすべて消ゆ
ひだまりの背の匂いだけ残し

花山短歌会（北区）

石が似合うツワブキ魅力その黄色
小さなハチは水平飛行
パパに手を引かれて可愛い男の子
片言うれし梅の咲くころ
大根の使い残しを切り干しに
亡き祖母に知るありがたき知恵
朝歩き駅のベンチでひと休み
隣りの人と話の弾む
午前中グランドゴルフ午後マージャン
月曜日老友会はいそがしき
咲き盛る枝垂れ桜のゆれる影
時の間夫と庭にたのしむ

◆個人

出合いより別離の多し歳経りて
面影偲ぶ真夜中の酒
年始から嬉しい知らせ孫息子
ひ孫に会える元気でいよう
過去はもう戻ることなど出来ないが
時折夢に昭和の頃が
播磨灘の島に囲まれ海面浮く
カキの筏に陽光のそそぐ
夢のこと友に話せばはいはいと
共に夢見る楽しい時間

◆投稿募集◆

文芸欄への投稿をお待ちしています。皆さまの
作品をお寄せください。
作品、住所、電話番号、単位クラブ名、お名前を
必ずご記入ください。
（投稿先）
〒650-0016
神戸市中央区橘通3丁目4-1
KOBESHINIAクラブ事務局「広報紙〇〇係」
FAX 341-8524
※〇〇は（俳句・短歌・川柳・へなぶり）等

